

都市再生整備計画 事後評価シート

JR船橋駅周辺地区

<第二期>

(原案)

平成29年2月

千葉県船橋市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	千葉県		市町村名	船橋市	地区名	JR船橋駅周辺地区		面積	76ha				
交付期間	平成24年度～平成28年度		事後評価実施時期	平成28年度		交付対象事業費	4,102.4百万円	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	都市計画道路3・3・7号線他1線、都市計画道路3・3・7号線、都市計画道路3・4・11号線、京成本線高架下・跡地自転車等駐車場、JR船橋駅南口ペDESTリアンデッキ、JR船橋駅北口エレベーター										
		提案事業											
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし										
		提案事業	なし										
	新たに追加した事業	基幹事業	本町駐車場満空表示板	事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
基幹事業		(仮称)本町一丁目公園							JR船橋駅周辺の駐車場の利用を促進する満空表示看板を設置することにより、主要幹線道路交通渋滞緩和を図る。影響なし				
提案事業		(仮称)保健福祉センター整備事業							活気あふれた中心市街地を創出するために、各種事業と一体的に公園を整備することで計画目標の推進を図る。影響なし				
交付期間の変更	当初	平成24年度～28年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
	変更	平成 年度～平成 年度											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標1	4駅定期外乗客数	人/日	83,122	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	○	あり	-	JRから京成線へ接続するペDESTリアンデッキの整備や、北口エレベーター等の整備により、駅南北の回遊性が向上したことと、景気の回復等により地区外からの駅周辺商業施設への駅の利用者が大幅に増加したと考えられる。	平成29年7月
					平成22年度	平成28年度	85,026	87,099					
	指標2	交通渋滞の緩和	混雑度	1.62	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	△	あり	●	都計道3・3・7他1号線の供用開始により、都心道路ネットワークが着実に形成されつつあることから、交通渋滞の緩和が見られたが、その他の路線が未完成であることから目標値の達成には至らなかった。	平成29年11月
					平成22年度	平成28年度	1.59	1.43					
指標3	放置自転車台数	台/日	814	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	○	あり	-	高架下自転車等駐車場が完成したこともあり効果が現れてきている。京成跡地自転車駐車場が整備されることで更なる効果が期待できる。	平成29年4月	
				平成22年度	平成28年度	331	203						なし
指標4	保健・医療・福祉サービス拠点事業の満足度	4段階評価	2.89	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	○	あり	-	市の保健・医療・福祉における中心的サービス拠点として施設を集約化し、利便性が高まったことで施設利用者の満足度が向上した。		
				平成24年度	平成28年度		3.25						なし
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	その他の数値指標1												
	その他の数値指標2												
	その他の数値指標3												
4)定性的な効果発現状況													
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	鉄道各社へ聴き取り調査、交通量調査、市統計資料等によるモニタリング。		都市再生整備計画に記載し、実施できた				毎年度、確認できるものは実施する。交通量調査については、交付期間完了後に再度調査を実施することにより確認する。					
				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した									
				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
住民参加プロセス	都市再生整備計画に記載し、実施できた		都市再生整備計画に記載し、実施できた										
	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した												
	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった												
持続的なまちづくり体制の構築	都市再生整備計画に記載し、実施できた		都市再生整備計画に記載し、実施できた										
	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した												
	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった												

様式2-2 地区の概要

JR船橋駅周辺地区(千葉県船橋市) 都市再生整備計画事業の成果概要

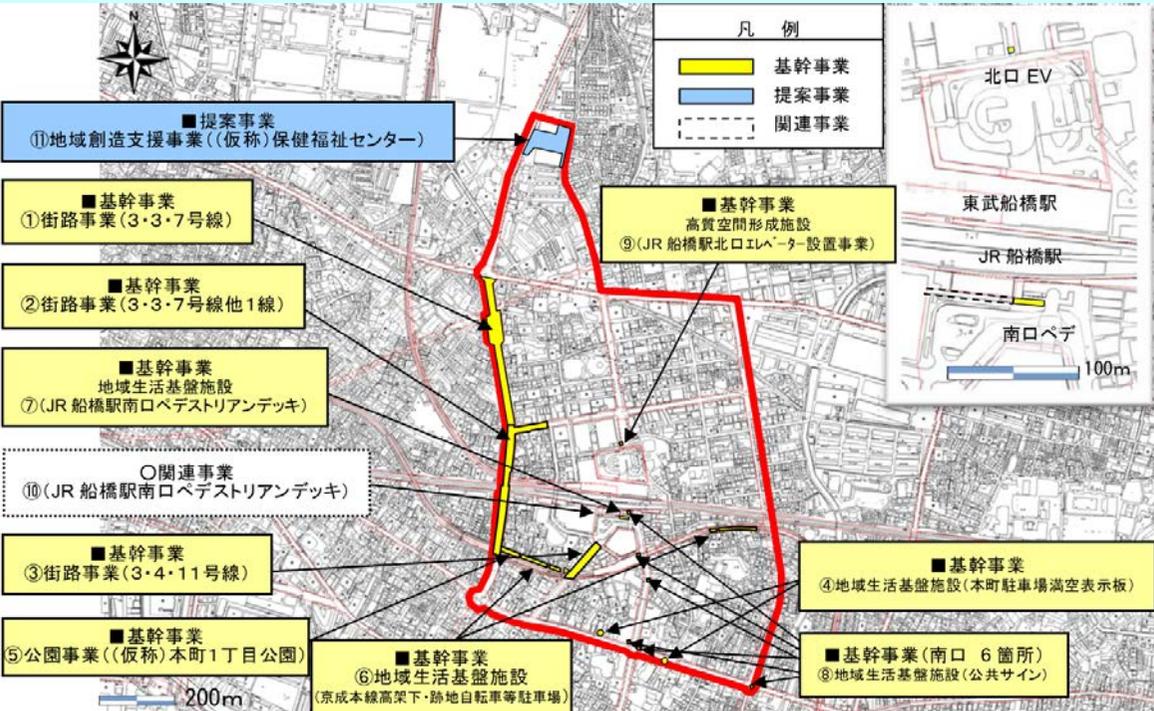
まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値	
本市の玄関口に相応しいにぎわいと活気にあふれた中心市街地の創出並びに健康で安心した生活ができる環境の整備 目標1: 駅へのアクセスを含む都心道路ネットワークの構築 目標2: 歩行者・自転車利用者が安全かつ快適に利用できる施設整備 目標3: 保健・医療・福祉サービスの連携を推進する拠点施設等の整備	4 駅定期外乗客数	単位: 人/日	83,122 H22	86,000 H28	87,099	H28
	交通渋滞の緩和	単位: 混雑度	1.62 H22	1.25 H28	1.43	H28
	放置自転車台数	単位: 台/日	814 H22	350 H28	203	H28
	保健・医療・福祉サービス拠点事業の満足度	単位: 4段階評価	2.89 H24	3.05 H28	3.25	H28

① 地域創造支援事業(仮称)保健福祉センター



② 街路事業(3・3・7号線他1線)





⑨ (JR船橋駅北口エレベーター設置事業)



⑥ 地域生活基盤施設



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 都心道路ネットワークを形成する街路整備や、京成線の連続立体交差事業により、駅周辺の交通の円滑化が図られ、駅へのアクセスが改善した。 一方では、交通量や歩行者数が増加していることから、今後は、道路ネットワークの強化による交通の分散や快適な歩行空間の確保等による歩行者・自転車利用者の利便性、回遊性の更なる向上が必要である。 京成線接続デッキの整備等により、橋上化された駅舎と再開発ビルのフェイスが2階レベルで接続され、乗り換えを行う歩行者の経路がデッキ上に変化し、駅利用者の安全性や快適性が向上した。 一方では、駅へのアクセス道路となる3・4・11号線が完成に至らなかったことから、今後は駅利用者の安全性や快適性をさらに向上するために、早期に整備を行う必要がある。 来街者数は増加したものの当初の目標値は達成できなかったことから、引き続きまちの魅力を向上させる施策等が必要となる。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標	●		目標3(なし)	目標3として、「保健・医療・福祉サービスの連携を推進する拠点施設等の整備」を追加。	提案事業追加により、都市再生整備計画を見直し目標を追加。
B. 目標を定量化する指標	●		指標4(なし)	指標4として、「保健・医療・福祉サービスの拠点事業の満足度を4段階評価」を追加。	提案事業追加により、都市再生整備計画を見直し指標を追加。
C. 目標値	●		指標4の目標値(なし)	指標4の満足度の数値目標を3.05に設定。	提案事業追加による数値目標の追加。
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	3・3・7号線他1線(南本町馬込町線)	150	L=444m	115.1	L=444m	交付対象事業費の減額	-	●	
道路	3・3・7号線(南本町馬込町線)	3,900	L=390m	1,462	L=397m	交付対象事業費の減額	-		
道路	3・4・11号線(本町本海川線)	1,107	L=92m	1,212.5	L=92m	交付対象事業費の増額	-		
公園	(仮称)本町一丁目公園	-	-	82.3	A=561㎡	平成27年度に計画変更して追加。活気あふれた中心市街地を創出するために、各種事業と一体的に公園を整備することで計画目標へのより一層の推進を図る。	影響なし		●
地域生活基盤施設	京成本線高架下自転車等駐車場	100	約1,600㎡ 1,306台	177	約1,600㎡ 1,306台	なし	-	●	
	京成本線跡地自転車等駐車場		約1,300㎡ 963台		約1,000㎡ 700台	規模、台数が減少	影響なし		●
地域生活基盤施設	本町駐車場満空表示看板	-	-	7.5	2基	平成25年度に計画変更して追加。JR船橋駅周辺の駐車場の利用促進する満空表示看板を設置することにより、主要幹線道路の交通渋滞の緩和を図る。	影響なし	●	
地域生活基盤施設	JR船橋駅南口ペDESTリアンデッキ	128	L=25m、W=4m、A=100㎡	88	L=25m、W=4m、A=100㎡	交付対象事業費の減額	-		●
地域生活基盤施設	公共サイン整備事業			18.0	6基	平成27年度に計画変更して追加。保健・医療・福祉サービス拠点となる複合施設の整備を実施している(仮称)保健福祉センター及び当該地区内に点在する公共施設への案内表示が十分とは言えない状況にある事から、移動利便性の向上を図る。	影響なし		●
高質空間形成施設	JR船橋駅北口エレベーター	100	1基	32	1基	交付対象事業費の減額	-	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	(仮称)保健福祉センター	-	-	908	5,666.65㎡	平成24年度に計画変更して追加。 保健・医療・福祉サービスの連携を 推進する拠点施設等の整備。	指標4の数値目標3.05	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業									
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考	
			当初計画	最終変更 計画	当初計画	最終変更計画			
船橋駅南口ペDESTリアンデッキ整備事業		船橋市	281	281	平成24年～平成27年	平成24年～平成29年	H29年完成に向けて事業推 進		

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
				基準年度		基準年度		目標年度					あり	なし		
指標1	4駅定期外乗客数	人/日	鉄道各社へ聞き取り調査の実施	77,036	H12	83,122	H22	86,000	H28	モニタリング	85,028	H27	モニタリング	△	-	-
										事後評価	確定見込み ●	87,099	事後評価	○		
指標2	交通渋滞の緩和	混雑度	交通量調査による実測値	1.91	H12	1.62	H22	1.25	H28	モニタリング	1.59	H27	モニタリング	×	●	
										事後評価	確定見込み ●	1.43	事後評価	△		
指標3	放置自転車台数	台/日	船橋市統計資料を活用	1,358	H12	814	H22	350	H28	モニタリング	331	H27	モニタリング	○	-	-
										事後評価	確定見込み ●	203	事後評価	○		
指標4	保健・医療・福祉サービス拠点事業の満足度	4段階評価	船橋市統計資料を活用			2.89	H24	3.05	H28	モニタリング	-		モニタリング	-	-	-
										事後評価	確定見込み ●	3.25	事後評価	○		
指標5										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み		事後評価			

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	平成27年度に目標値を達成しており、近年では増加傾向にあるため目標達成見込みとした。	
指標2	平成9年度からは概ね減少傾向であるが、対象事業が一部未完成であるため、都心道路ネットワークが完成していないことから目標未達とした。	
指標3	平成27年度に目標値を達成しており、近年では減少傾向にあるため目標達成見込みとした。	
指標4	平成28年度に目標値を達成しており、確定とした。	
指標5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	モニタリング	事後評価	見込み		
その他の 数値指標1							モニタリング				
							事後評価	確定	見込み		
その他の 数値指標2							モニタリング				
							事後評価	確定	見込み		
その他の 数値指標3							モニタリング				
							事後評価	確定	見込み		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
鉄道会社へ聞き取り調査や市統計資料等によるモニタリング	予定どおり実施した	● 【実施頻度】年度1回 【実施時期】9月 【実施結果】現状で数値が計測できる指標について交付期間中の変化を確認することができた。	毎年度の鉄道各社へ聞き取り調査や本市統計書等により確認する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
交通量調査の実施	予定どおり実施した	● 【実施頻度】交付期間中間年度及び交付完了翌年度 【実施時期】11月～12月 【実施結果】現状で数値が計測できる指標について交付期間中の変化を確認することができた。	交付期間完了後に再調査を実施することにより確認する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備事業事後評価庁内検討会	関係各課(都市計画課、道路計画課、道路建設課、都市整備課、公園緑地課、健康政策課等)	平成28年9月13日(全1回)	都市計画部都市政策課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		指標3		指標4	
指標名		4駅定期外乗客数		交通渋滞の緩和		放置自転車台数		保健・医療・福祉サービス拠点事業の満足度	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	3・3・7号線他1線(南本町馬込町線)	△	南口ペDESTリアンデッキや公共サイン等の他、北口エレベーターの整備により、バリアフリー化が強化され、歩行者の安全性・利便性が向上したことで指標値が増加している。京成本線跡地の(仮称)本町一丁目公園については、良好な環境の地域密着型の公園として間接的に指標の改善に貢献している。また、全ての道路が完成し、道路ネットワークの構築がなされれば、歩行空間ネットワークも充実することとなり間接的な改善に貢献することが期待できる。		-	京成本線高架下の施設が整備されたことにより効果が現れている。今後、京成本線跡地の施設の整備によりさらなる効果が期待できる。		-	市の保健・医療・福祉の中心的サービス施設として、(仮称)保健・福祉センター整備事業が完成したことにより効果が現れていると思われる。
	3・3・7号線(南本町馬込町線)	△							
	3・4・11号線(本町本海川線)	△							
	(仮称)本町一丁目公園	○							
	京成本線高架下・跡地自転車等駐車場	○					◎		
	本町駐車場満空表示看板	○					-		
	JR船橋駅南口ペDESTリアンデッキ	○					-		
公共サイン整備事業	○		-						
提案事業	JR船橋駅北口エレベーター	○			-		○		
関連事業	(仮称)保健福祉センター	○			-		◎		
	船橋駅南口ペDESTリアンデッキ整備事業	○			-		-		

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- 一 : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	駅周辺の商業活性化により、まちの魅力向上を行うとともに、駅へのアクセス強化のため、デッキ階の回遊性向上やバリアフリー化に一層の強化を図ることで鉄道利用促進を促す。	引き続き放置自転車調査を継続して実施し、状況の把握と放置自転車禁止啓発活動により安全・安心の歩行空間の確保に努める。	各施設における市民サービスの充実を図るとともに、各施設を集約したことによるメリットを活かし、保健・医療・福祉の連携を図った取り組みを推進していく。
-------	---	--	---

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			指標3			指標4			
指標名		4駅定期外乗客数			交通渋滞の緩和			放置自転車台数			保健・医療・福祉サービス拠点事業の満足度			
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	
基幹事業	3・3・7号線他1線(南本町馬込町線)				△	都市計画道路3・3・7号線他1線が平成24年に供用開始したことや、本町駅前広場から南へ抜ける都市計画道路3・3・7号線や駅南口の駅前広場から南へ抜ける都市計画道路3・4・11号線が未完成のため、道路ネットワークの構築ができていないことから目標達成ができなかったと思われる。	I							
	3・3・7号線(南本町馬込町線)				××									
	3・4・11号線(本町本海川線)				××									
	(仮称)本町一丁目公園				-									
	京成本線高架下・跡地自転車等駐車場				-									
	本町駐車場満空表示看板				△									
	JR船橋駅南口ペDESTリアンデッキ				×									
	公共サイン整備事業				-									
提案事業	JR船橋駅北口エレベーター				△									
	(仮称)保健福祉センター				-									
関連事業	船橋駅南口ペDESTリアンデッキ整備事業				×									

※目標未達成への影響度
 ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 -: 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)		引き続き未完成都市計画道路の整備を促進し、交通渋滞の早期緩和を図る。	
------------------	--	------------------------------------	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備事業事後評価庁内検討会	関係各課(都市計画課、道路計画課、道路建設課、都市整備課、公園緑地課、健康政策課等)	平成28年9月13日(全1回)	都市計画部都市政策課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
駅へのアクセス道路を含む都心道路ネットワークの整備	都計道3・3・7号線他1線が完成したことで南北の交通条件が改善し、都心道路ネットワークの形成に大きく寄与した。 駐車場満空表示板の設置により駐車場への車両案内がスムーズになったことで、駅周辺道路の迷惑駐車車の減少や駅南側の交通渋滞の緩和につながり車両の駅へのアクセス性が向上した。	都心道路ネットワークを形成する道路のうち、未整備区間について、早期整備を図る必要がある。	特になし
歩行者・自転車利用者が安全かつ快適に利用できる施設整備	京成線高架下自転車等駐車場の整備により、駅周辺の放置自転車が減少し、歩行者等が安全かつ快適に通行できるようになった。 北口エレベータの設置によりバリアフリー化が図られ、高齢者や障害者も駅の南北の移動がより快適になった。	駅へのアクセス道路となる都計道3・4・11号線の整備を促進し、駅利用者の安全性や快適性をさらに向上させる。	特になし
保健・医療・福祉サービスの連携を推進する拠点施設等の整備	(仮称)保健福祉センター整備事業が完成し、船橋市の保健・医療・福祉のサービス拠点の中心として日々の安全な生活を支える体制が整った。	保健・医療・福祉の連携推進の拠点としての機能の向上に努め、より多くの市民の利用促進を図る。	特になし

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	バリアフリー化の促進	関連事業のペDESTリアンデッキ整備の完了と併せて、現在、地下駐輪場から地上階までのエレベーターをペDESTリアンデッキ階まで延伸する。	ペDESTリアンデッキ階までのエレベーター延伸整備
	歩行者の安全性及び回遊性の確保	3・4・11号線の整備後、ペDESTリアンデッキ階の回遊性を高めるとともに、歩行者等の安全な歩行空間を充実させる。	3・4・11号線横断デッキの整備
	保健福祉センターの利用促進	新たに整備された保健福祉センターの認知度向上やソフト事業の充実を図る。	構成施設の業務内容についての広報活動や相談事業等の充実
	各施設の維持	都市再生整備計画事業で建設・設置された道路や施設について、適切に維持・管理を行い長寿命化を図る。	道路や施設のグレードアップを伴うメンテナンス事業

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	都心道路ネットワークの形成	都心道路ネットワークを形成する道路のうち未完成区間の整備	3・3・7号線、3・4・11号線の整備
	交通渋滞の緩和	3・3・7号線、3・4・11号線の早期整備	3・3・7号線、3・4・11号線の整備
	・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策		

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

- 交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
- 事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
- 数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
- 数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
- 残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度						予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	4駅定期外乗客数	人/日	83,122	H22	86,000	H28	確定	87,099	○	あり	-	平成29年7月	従前値と同じ計測方法を用い、4駅(JR船橋駅、京成船橋駅、東武船橋駅、東葉東海神駅)の定期外乗客数について、平成28年度における日平均の合計値を各鉄道会社からのヒアリングにより計測して確定値とする。	
							見込み			●	なし			
指標2	交通渋滞の緩和	混雑度	1.62	H22	1.25	H28	確定	1.43	△	あり	●	平成29年11月	従前値の対象とした3路線(国道14号、県道船橋我孫子線、県道夏見小室線)について、「平成22年度道路交通センサス」と同一地点において船橋市が交通量調査を実施し、「平成22年度道路交通センサス」における各路線の交通容量を使用して混雑度を算出し、その平均値を持って確定値とする。	
							見込み			●	なし			
指標3	放置自転車台数	台/日	814	H22	350	H28	確定	203	○	あり	-	平成29年4月	船橋市が年4回実施する放置自転車調査に基づき、平成28年4、7、10月、平成29年1月の船橋駅周辺の放置自転車台数の集計を行い、その平均値を持って確定値とする。	
							見込み			●	なし			
指標4	保健・医療・福祉サービス拠点事業の満足度	4段階評価	2.89	H24	3.05	H28	確定	3.25	○	あり	-			
							見込み			●	なし			
指標5				H		H	確定			あり	-			
							見込み				なし			
その他の数値指標1				H			確定							
その他の数値指標2				H			見込み							
その他の数値指標3				H			確定							
							見込み							

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	—	—
	うまく いかなかった点	—	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	—	—
	うまく いかなかった点	—	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	—	—
	うまく いかなかった点	—	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	—	—
	うまく いかなかった点	—	
その他	うまくいった点	—	—
	うまく いかなかった点	—	

添付様式6—参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

本計画で実施した事業の効果を更に高めるため、当該地区において都市再生整備計画事業の活用により、第三期計画を推進していく予定。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成28年12月12日(月)から 同年12月22日(木)まで	平成28年12月12日(月)から 同年12月22日(木)まで	担当課への持参、郵送、FAX、電子メール	都市計画部 都市政策課
広報掲載・回覧・個別配布	市のホームページと都市政策課窓口で閲覧を周知	平成28年12月12日(月)から 同年12月22日(木)まで	平成28年12月12日(月)から 同年12月22日(木)まで		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	市役所・船橋FACE・習志野台出張所において閲覧	平成28年12月12日(月)から 同年12月22日(木)まで	平成28年12月12日(月)から 同年12月22日(木)まで		

住民の意見	意見無し
-------	------

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	寺内 義典 国土館大学 理工学部 理工学科 教授 江守 央 日本大学 理工学部 交通システム工学科 助教 川崎 智也 東京工業大学大学院 理工学研究科 助教	視 察 ：平成29年 1月26日	都市計画部都市政策課 (都市再生整備計画事業 主管課)	船橋市都市再生整備計 画事業事後評価委員会 設置要綱	独自に設置
その他の委員	伊藤 将美 船橋市商店会連合会 宮村 榮俊 船橋市商店街連合会	委員会 ：平成29年 2月17日			

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手 続き等にか かる審議	方法書	
	成果の評価	
	実施過程の評価	
	効果発現要因の整理	
	事後評価原案の公表の妥当性	
	その他	
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	
今後のまち づくりにつ いて審議	今後のまちづくり方策の作成	
	フォローアップ	
	その他	
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	
その他		

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。